

四谷の

千枚田だより



第 240 号

「四谷の千枚田だより」

発刊二十年 その経緯と効果

鑑みると、平成十三年第七回全国棚田(千枚田)サミットが石川県輪島市(白米の千枚田)で開催された。その懇親会会場(ふるさとキャラバン・棚田学会事務局)の高橋久代さんから、「もう、ぼちぼち 四谷の千枚田もサミットをやってちょうだいよ、あなたも古くから棚田保存にご尽力しているでしょう。やる(棚田サミット)のが当然だから」と、言われた。とっさの出来事で返答に困り、下江町長さんや筒井係長、高橋庄一保存会会長に打診、その時は、皆んなあつげに取られた状況であったが高橋久代さんの強い要望で筒井係長、高橋庄一会長と共に全国棚田連絡協議会会長に面会。一応開催地候補に手を挙げることにした。もし、平成十七年開催ならば愛知万博が開催されるし、サミットに出席した全国の棚田関係者が愛知万博を見学することにより大きな波及効果が生じると、咄嗟な判断が脳裏を掠めた。ちなみに鳳来町最後(平成十七年十月一日新城市に統合)の大イベントになることも間違いない事実であり、歴史的な大事業と確信した。

平成十五年九月五・六日の両日、第九回全国棚田(千枚田)サミットが岐阜県恵那市(坂折棚田)で開催、

その首長会議で平成十七年第十一回全国棚田(千枚田)サミットが鳳来町(四谷の千枚田)で開催されることが正式に決定。決定の瞬間、鳳来町から出席した地元住民、棚田関係者全員が立ち上がり、「鞍掛山麓千枚田保存会」の法被を纏い精一杯のアピールをした思い出(鳥肌がたつた)が過る。

その懇親会で、我が町 鳳来町の開催にご尽力いただいた 高橋久代さんと杯を交わしながら、「念願のサミットも招致できた、何か、アクションを起こさなければ」とお話し、情報の発信として四谷の千枚田を中核とした地域の情報誌の発行を提案した。同年九月二十一日、鳳来町にサミット関連の事務連絡を兼ねて千枚田を訪れた時、発刊第一号の「四谷の千枚田だより」をお渡しした。以来二十年間毎月一回、旧海老町全戸配布、鳳来町(現新城市)ホームページで配信、二十九号からは愛知県新城設楽農林水産事務所建設課のお力添えで「ふるさと・水と土指導員活動支援」の一環としてカラー印刷で配布している。

掲載内容は、楽しく、朗らかで読みやすいをモットーとする。千枚田の活動(稲作体験学習、研修、講演、視察対応など)。地域活動(伝統伝承行事・コミュニティなど)。その時々々の情報を広く提供する記事に心掛ける。等々を念頭に置いて編集することとし、継続してきた。

サミット開催までの二年間は地

域住民、関係機関を巻き込んだ「サミット成功へ」を前面に各種活動を掲載(事例)サミットお助け隊発足・鳳来町議会 地域独自の視点から三件の案件が答弁された・愛知万博会場で「四谷の千枚田だより」を配布、サミット開催をアピール)。

サミット開催「緑と水と心のオアシス」をテーマに平成十七年九月一日、二日に延べ千七十八人。地元を含む千五百人が取り組むという盛大な催しであった。《皆んなよく頑張った! 携わった一人一人が満足感・達成感を得たなら、これを由としよう。連谷魂(団結)がいかに大きく発揮され、地域の活性化に繋ぐ大きな糧となった》と記載されている。



第 11 回全国棚田(千枚田)サミットの様子

サミットに向け、アクション(四谷の千枚田だより二年間継続発行)もそれなりの効果を得ることができた。と自負。目的が達成したら、はいサヨナラは、できない性格と、リピーターにも好評?のため、継続発行することとした。地域の宝、むらづくりを題材とした寄稿、講演、研修受入れ、各種応募、受賞などには添付資料として利活用、効果を発して来た。

授賞・認定

- ・ 農村アメニティ・コンクール 農林水産大臣賞
 - ・ 東海美の里百選 東海農政局
 - ・ 豊かな自然セレクトション一〇〇 愛知県環境部
 - ・ 豊かなむらづくり 東海農政局長賞
 - ・ 食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり 愛知県知事賞
 - ・ 美しい愛知づくり景観資源六〇〇選認定 愛知県
 - ・ 田園自然再生生活動コンクール 農林水産大臣賞
 - ・ 美の里づくりコンクール 審査会特別賞
 - ・ デイスカパー農山漁村(むら)の宝 農林水産省選定
 - ・ デイスカパー農山漁村(むら)の宝 東海農政局長賞
 - ・ グットプラクティス 愛知県 名古屋市長 選定
 - ・ デイスカパー農山漁村(むら)の宝 (個人部門) 東海農政局長賞
 - ・ つなぐ棚田遺産 農林水産省認定
 - ・ あしたのまち・くらしづくり活動 あしたの日本を創る協会主催者賞
- 環境活動
平成二十一年から導入された「あ

いち森と緑づくり環境活動・学習推進事業」に応募、採択され「四谷の千枚田周辺の環境保全活動・ゆとりある地域づくり」に地域の自主性や想像力を活かした活動を保存会、連谷お助け隊、地域住民共々実施。

特に生活道の環境整備として松下地内、方瀬、真菰、方瀬、稲目に至る生活道の除伐や日溜まり確保には地域住民を交え、実施。喜ばれたり、絆づくりを構築した。

この活動を契機に方瀬集落は毎年、稲目までの県道沿いの除伐、住環境整備を毎年行っていることは嬉しい。

学習推進事業では自然観察会から、日本固有種のモリアオガエルの自然再生が特別教科道徳読本（小学四年生）愛知版に掲載されるなど環境保全活動に寄与した。五年継続**招致・協力**

平成二十二年、生物多様性条約第一〇回締約国会議(COP10)エクスカリシヨンの受入れ

COP10については四谷の千枚田が愛知の里山と位置付けられ、名古屋市・愛知県の招致活動に貢献した。開催年には名古屋全域や市電、市バスなどに四谷の千枚田がアサヒスーパードライのポスターとして掲示、一躍愛知の顔となった。

また、COP10が愛知県で開催されたことにより「生物多様性」の重要性が国民に浸透。各種環境保全活動が盛んになり、その一助を担ったことには憚らない。

BBC英国放送協会外国特派員の笹生さんは「四谷の千枚田だより」を知り、お会いできないかと打診があり、生物多様性と景観に富んだ千

枚田を紹介、特にモリアオガエルの生態に監督が大きく興味を抱き、十日間の長期撮影の映像を世界各国へ配信、NHKでも放送された。**イベント コミュニティ他**

平成二十七年九月五日、全国棚田（千枚田）サミット開催十周年記念シンポジウム 地域の宝 これからの千枚田保全について、みんなで語ろう千枚田の開催

棚田博士中島峰広先生、棚田ネットワーク高野光世さんを招き、各種団体、地域住民、行政関係機関総勢二百十名の参加者が一堂に会し、みんなで頑張ったサミット成功を肴に、美酒に酔いしれた。

会場では、丸八製菓八雲だんごの鈴木社長さんの心意気で、参加者のだんごが惜しげもなく振る舞われたことが思い出に残る。

毎年、六月第一土曜日、「お田植感謝の夕べ」作業道に千五百本のロウソクを灯し、天空に十五発の花火が彩る幻想的で癒しを提供する催し。

毎年、十二月第二日曜日、「収穫感謝祭」ふれあい広場で餅つき、シシ汁、天空のコンサート(生バンド)を開催。

平成十八年から、横浜ゴム新工場場の新人社員研修を受入れ、同社が「企業は地域貢献、環境に配慮を責務」とするまでに至った。同年から豊橋調理製菓専門学校も食の原点である「米づくり」を実践、食の大事さを毎年、学んでいる。

楽しい思い出として医療品、医薬品販売のアストラゼネカ社(社員三千人)は高齢化する村を支援するプロジェクトと題し、全国の棚田四十カ所に社員を派遣、労働支援を実施

した。四谷の千枚田も毎年、百人規模で受入れた。受け入れ側の保存会のお助け隊の面々は訪れたメンバーを見てビックリ仰天、皆若い！、シラウオのような手をした女子社員に「こりゃあ無理だ」と直感したようだが、なかなか性がよく、次第に、休みながらやつとくれん：などとお世辞を言いながら近寄る輩もいた。(四年間継続)

映画「あん」の撮影地 樹木希林さんをお花見会の参加者にサブライズ、地域に大きな思い出を作った。大型ドラマ「リーダーズII」百二十五人の撮影関係者の接待と出演。

俳優・佐藤浩市、内野聖陽、東出昌大、えなりかずき、でんでん、エキストラは地元住民、若い衆を募り、俳優の厳しさを実感させた。これに、懲りたか、この村から俳優はいない。

生産面では、丸八製菓八雲だんごの協力で古米を活用した「千枚田五平餅」の開発(郵便局とタイアップ、宅配便で全国展開)、耕作者は現金収入を得ることで、耕作意欲が向上した。等々

「継続は力なり」く止まない雨はないを主眼に「四谷の千枚田」を地域の宝と位置付けた活動をディスプレイ農山漁村(むら)の宝に応募、コミュニティ部門に選定、受賞、授賞式は首相官邸で安倍首相から授与、赤じゅうたんでの記念撮影が一生の思い出もあり、地域の皆さんからいただいた「宝」であることを心に刻んだ。

発行、二十年を振り返ってみて、とても記念号に纏めることはできないほどの膨大な記事が掲載されている。よろしければ、新城市のホ

ームページで「四谷の千枚田だより」と検索して頂ければ全号がみられるし、是非、読んでもらいたい。



お知らせ

令和五年十月一日(日)、第八回奥三河パワートレイルが開催される。エイドステーション(ふれあい広場)運営の協力依頼があり、全国各地から参加する選手を歓迎し、大会を盛り上げたいと思います。ご協力をお願いいたします。

行 令和五年九月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山 舜 二